

危機管理マニュアル

【震災編のみ抜粋】

本資料は、学校保健法第29条に基づき、板橋区立板橋第三中学校で策定している「危機管理マニュアル」のうち、震災編のみ抜粋したものとなります。板橋区立学校では、子どもたちが在校時において、震度5弱以上の地震が発生した際には、原則として保護者に引き渡すことになっています。本資料の公開にあたっては、学校と地域、保護者の皆様が震災発生時の対応について共有することで、子どもたちの安心・安全確保につなげていくことを目的としています。

目

次

1	大地震発生時の対応	1
2	地震警戒宣言発令判定会招集時の対応	10
	集団下校地域班編制	11
3	生徒の引き渡し	12

1 大地震発生時の対応

基本的な手順

- ★ 緊急地震速報が放送された場合の対応
 - ・上から物が「落ちてこない」、横から物が「倒れてこない」場所に身を寄せて、頭を保護しつつ、揺れに備えて身構えるよう指示する

第1段階

- 1 安全の確保を指示（机の下にもぐるなど）
- 2 生徒の避難（体育館へ） ← 全教員
- 3 初期消火・消防への通報 ← 事務・用務主事、栄養士・調理員

<体育館で>

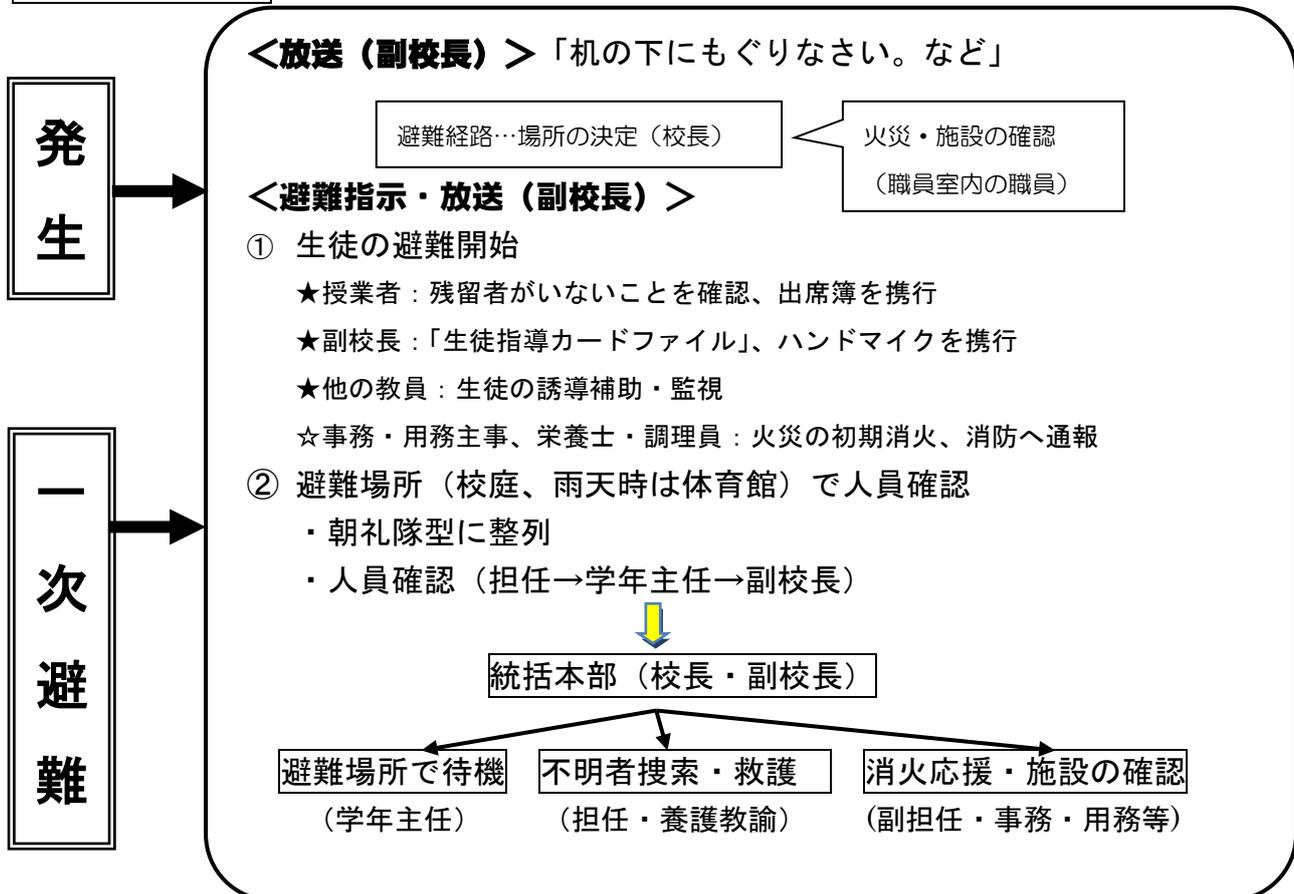
- 4 生徒の人員確認・待機（◎学年主任）
- 5 不明生徒の搜索・救護（学級担任・養護教諭）
- 6 消火の応援・施設（校舎）の安全確認（副担任等）

第2段階（次のいずれか）

- ◇ 教室に戻る。
- ◇ 集団下校させる。
- ★ 震度5弱以上の場合は、原則として保護者による引き取り

第1段階

1 授業中の場合



第2段階へ

2 休み時間の場合

発
生

＜放送（副校長）＞「机の下にもぐる。窓から離れる。その場にしがむ。など」

★教員（教室・廊下等にいる教員は、その場で生徒を指導）

＜避難指示・放送（副校長）＞

③ 生徒の避難開始（生徒は各自で体育館に移動）

★職員室内の教員：各学年の出席簿を持って各フロアに急行、生徒を誘導
・各フロアの教室、トイレ等に残留生徒がいないかを確認し体育館へ

★副校長：「生徒指導カードファイル」、ハンドマイクを携行

☆事務・用務主事、栄養士・調理員：火災の初期消火、消防へ通報

④ 避難場所（校庭、雨天時は体育館）で人員確認
（以下、授業中の場合と同様）

3 放課後の場合

発
生

＜放送（副校長）＞「机の下にもぐる。窓から離れる。その場にしがむ。など」

★部活動・委員会の指導教員は、その場で生徒を指導

★部活動中の生徒は、体育館や運動場中央に避難する。

＜避難指示・放送（副校長）＞

⑤ 生徒の避難開始（生徒は各自で体育館に移動）

★職員室内の教員：各学年のフロアに急行、生徒を誘導
・各フロアの教室、トイレ等に残留生徒がいないかを確認し体育館へ

★副校長：「生徒指導カードファイル」、ハンドマイクを携行

☆事務・用務主事、栄養士・調理員：火災の初期消火、消防へ通報

⑥ 避難場所（校庭、雨天時は体育館）で人員確認
◆部活動の顧問と連携しながら、クラスごとに人員を確認
（以下、授業中の場合と同様）

※ 管理職が不在の場合は、生活指導主任や主幹教諭、学年主任などが本部（全体指揮）を代行

※ 本部（全体指揮）は、教育委員会への報告も行う。

第2段階

＜校庭（雨天時は体育館）に生徒を待機させる。＞

統括本部（校長・副校長）
＜校長室 or 体育館＞

- ◆ 校舎の安全性の確認
- ◆ 余震の状況
- ◆ 学校周辺の状況
- ◇ 交通機関の運行状況（はとぶえ学級）
- ※ 区の防災本部等との連絡

＜震度4以下＞

- ◇ 生徒を校舎に戻す。

or

- ◇ 集団下校させる。（SBS、STEP UP は個別に対応）

＜震度5弱以上＞

- ◇ 保護者による引き取りとする。

- **担任**：各家庭へ電話連絡
- **学年主任**：来校保護者への引き渡し

※近隣の生徒について、近隣の保護者が責任をもって引き取るという場合は委ねる

※年度当初に「引き取りが困難である」旨の申し出がある生徒は残留させる。

- **副担任**：かかってきた電話への対応、残留生徒のための非常災害用備蓄品の準備等
- **副校長**：区の防災課等、外部機関との連絡・調整
- ホームページへの掲載（教務部）

（この後は、区の避難所運営責任者の指示のもとに動く）

＜残留生徒への対応＞

- 生徒の待機、宿泊は体育館で行う。

地震発生時の 緊急放送

地震

【発生直後】

地震が発生しました（しています）

生徒の皆さんは落ち着いて行動してください

【授業中】

机の下に入り、頭を守ってください

（机がないところでは、ガラスや窓からできるだけ離れてください）

（体育館や校庭では、中央に集まってください）

【休み時間】

生徒のみなさんは、「物が落ちてこない」「倒れてこない」「移動してこない」場所を探して移動してください。

揺れがおさまるまで身の安全を守ってください。

【揺れがおさまったあと】

【安全な場合】

揺れがおさまりましたので安心してください。

先生方は授業を続けてください。

【非難する場合】

（ ）から出火
（ ）倒壊の恐れあり
（ ）階段は使えません

先生の指示に従って、
落ち着いて（ ）
に避難しなさい。

階段の呼び方

職員室前 A階段

生徒玄関前 中央階段(B階段)

体育館側 C階段

避難の手順

- 1 出火場所・損壊場所を確認
- 2 避難経路を確認
- 3 人員確認（出席簿）
- 4 廊下に整列⇒避難開始
- 5 避難場所で整列（朝礼隊形）
- 6 人員点呼⇒報告
（担任→学年主任→副校長）
- 7 状況によっては二次避難

避難経路

- 1 出火場所・損壊場所・倒壊や崩落の恐れのある箇所等を確認し、安全な経路を選択する。
 - * 出火場所の階が異なる場合は十分確認する。
 - * 出火場所から遠ざかる方向に避難する。
 - * 出火場所に近接した階段の使用は避ける。
 - * 階段では上の階からの避難者を優先する。
- 2 適切な経路をすばやく選択できるように、日頃から教室や階段等の位置関係を把握しておく。

避難時の注意

- ① 指示は「短く」「分かりやすく」「はっきりと」おこなって混乱を防止する。
- ② 拡声器・ホイッスル・懐中電灯等を活用して確実に誘導する。
- ③ 特に階段では、整然と順序良く避難できるよう確実に指示誘導を行う。
- ④ 避難の際の優先順位は4階→3階→2階を原則とし、上の階は階段の内側を通る。
- ⑤ 「おさない」「かけない」「しゃべらない」「もどらない」を徹底させる。
- ⑥ ガラス片等による受傷防止に十分留意する。火災が発生し煙が出ている場合は、姿勢を低くし、ハンカチ等を口にあてて、煙を吸わないようにして避難する。
- ⑦ 校舎を出た後は早足で集合場所に向かう。
- ⑧ 集合場所に到着したらすばやく整列させ座らせる。
- ⑨ 避難終了後は直ちに人員を確認し、報告する。
- ⑩ 校舎内へ戻ったり無断で下校したりすることのないように注意する
 - * 保護者が迎えに来た場合は、原則として、下校の指示があるまで待つていただく。
 - * 特別な事情がある場合には、本部で確認し確実に記録した後、引き渡す。

二次避難（校庭への避難）終了後の動き

※ 雨天時は体育館

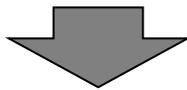
1 状況確認

校内の状況確認

- ① 校舎損壊の程度・崩落の可能性
- ② 火災の状況、出火・延焼の可能性
- ③ 電気・ガス・水道・下水・トイレの状況
- ④ 災害備蓄用品の状況・避難生活の可否

近隣の状況確認…自転車等の活用

- ① 家屋等の損壊の程度・崩落の可能性
- ② 道路（避難路）の状況・今後の見通し
- ③ 火災の状況、出火・延焼の可能性
- ④ 周辺の一部避難所の状況



2 本部で検討

① 学校が安全と判断された場合

- ⇒学校で待機／校内の安全点検・整備（生活空間の確保）
- ⇒学区およびその周辺地域の安全が確認された時点で集団下校。
- ⇒自宅に被害があり保護者とも連絡が取れない生徒は学校に戻って待機する。
- * 保護者が生徒を引き取りに来た場合
 - 確認・記録のうえ引き渡す。（状況によっては保護者も学校で待機）

② 学校においては危険と判断された場合

- ⇒三次避難／前ページ「避難時の注意」に準じて広域避難場所へ移動する。
- 広域避難場所…西が丘競技場（状況に応じ、より安全な避難場所に避難する）
- ⇒避難終了後も、生徒は、保護者に引き渡すまでは学校が掌握し管理する。
- * 保護者が生徒を引き取りに来た場合
 - 確認・記録のうえ引き渡す。（状況によっては保護者も一緒に避難）
- * 避難の際は、避難先および連絡先（携帯電話等）を正門・北門前に掲示しておく。

校外学習・遠足・修学旅行等の時

安全確保・避難誘導	教職員
	○看板、家屋の外壁からの落下物・転倒物・高層ビルの窓ガラスの飛散から身を守るよう指示する。
	○古い建物や建設中の建物、ブロック塀、石塀、自動販売機、地割れした道路、倒れた電柱、垂れ下がった電線には近づかない。
	○海岸や海辺周辺、川岸、橋の上にいる場合には、津波のおそれがあるため、高台など安全な場所へ迅速に避難する。津波の高さは10メートル以上のビルの高さとなって襲ってくることもあるので、十分注意する。
	○山間部にいる場合は、山崩れやがけ崩れ、落石が起こる可能性があるため、迅速に安全な場所に避難する。
	○最寄りの避難場所など安全な場所に避難誘導し、児童・生徒の状況を確認する。
	○電車・バス等に乗車中の場合や施設内では、係員の指示に従って行動する。
	○負傷者の有無を確認する。
	○児童・生徒の不安の緩和に努める。
	○避難の際に援助を要する者への対応には十分配慮する。
児童・生徒	
○落下物から身を守るなど、安全確保を図る。	
○教職員の指示をよく聞き、勝手な行動をとらない。	
○流言等の不確かな情報に惑わされず、落ち着いて行動する。	

救出活動・応急救護	教職員、児童・生徒
	○負傷者が発生した場合には、応急救護にあたるるとともに、必要に応じて地元の消防署に通報し、医療機関への搬送を行う。 ○建物の倒壊等により児童生徒・教職員等が生き埋めになった場合には、地元の消防署、消防団等に救出依頼する。

災害対策本部設置 情報収集・伝達	教職員
	○現地の教職員は、携帯電話等で学校に連絡し状況を報告する。
	○状況によっては、現地の行政機関・消防機関等に状況を伝える。
	○学校は、携帯電話等により現地における被害状況の把握に努める。
	○状況によっては、現地に救助・応援のため職員を派遣する。 ○保護者にできる限り詳しい現地の情報を伝える。

2 地震警戒宣言発令判定会招集時の対応

生徒在校中の対応

判定会招集情報
(区教委より)

* この情報については、報道機関による報道が開始されるまでは
(召集30分後に報道解禁)、取り扱いに注意すること

警戒宣言対策本部設置 (準備作業開始) ⇒警戒宣言発令と同時に活動開始

対応態勢・対応措置

指揮本部

[校長、副校長、(職員室)]

* 人員配置指示、活動指揮、生徒・保護者等への対応指示、非常搬出指示等

情報・連絡

[副校長、生活指導主任、学年主任]

* 情報収集、近隣の状況確認⇒緊急放送 (授業打ち切り→学活→集団下校)

* 情報の収集・整理・伝達、⇒指揮の補佐

防火 (初期消火)

* 校内の火災予防措置…電気、ガス、可燃物、危険物等の安全措置

* 消火器・消火栓・防火扉の位置・操作法確認、消火栓水圧確認・調整⇒ポンプ室

救護

* 救護用品等の点検・整備

生徒保護 (避難・誘導・人員確認)

* 生徒誘導、整列、点呼、管理 (拡声器、出席簿、連絡網等携行)

* 人員確認⇒直ちに本部 (副校長) へ連絡

* 集団下校指導 (校舎への戻りや無断下校等に注意)

保護者対応

* 家庭へ連絡 (緊急連絡網)

* 保護者からの問い合わせ対応、来校した保護者の案内・整理、生徒引渡し (記録)

非常持ち出し

* 非常持ち出し物品の確認および梱包、持ち出しの準備・手配

生徒の動き

- ① 判定会招集の時点で緊急放送
- ② 下校準備
- ③ 学活
- ④ 体育館に集合整列
- ⑤ 点呼
- ⑥ 集団下校地域班に集合整列
- ⑦ 点呼：不在者は担任等に確認
- ⑧ 集団下校

- * 保護者が迎えに来た場合は、原則として、下校の指示があるまで待たせる。
- * 特別な事情がある場合には、本部で確認し確実に記録した後引き渡し、担任や地域班担当者にも確実に伝える。
- * 保護者が不在の生徒については、原則として、保護者と連絡が取れるまで、学校に残留させる。
- * 残留生徒名簿を作成し、確実に掌握する。

登校途中の場合⇒一度登校して指示に従う。下校途中の場合⇒まっすぐに帰宅する。

【地域班編制】（詳しくは年度ごとのプリントを参照）

班	町名 番地
1	氷川町
2	中板橋
3	双葉町
4	仲 町
5	栄 町
6	大和町
7	仲 宿
8	その他

- * 人員点呼を確実にいき、全ての生徒を確認したうえで、下校を開始する。
- * 保護者に引き渡した生徒・残留する生徒については確実に記録しておく。
- * 帰宅後、保護者などと全く連絡が取れない生徒は学校に連絡するように指示する。
- * 各班2列で整然と下校させ、道に広がったり遅れたりさせない。
（状況に応じて列の増減をする。）
- * 最短距離で帰宅するために途中で列を離れることはかまわないが、逆流はさせない。

3 生徒の引き渡し

(1) 生徒の保護者への引き渡し

- ① 震災時における学校の対応など防災に関する計画を保護者に周知するとともに、児童・生徒の引き渡しを円滑に行うため、緊急時の連絡カードを兼ねた引き渡しカードをあらかじめ作成し、その活用方策について具体的に協議しておくこと。
- ② 非常時において児童・生徒の引き渡しに関して保護者への情報伝達が確実に行えるような連絡手段を整えておくこと。
- ③ 特別支援学級の児童・生徒は、学校において直接保護者へ引き渡すことを原則とする。

<生徒引き渡し・緊急時連絡カード>

生徒氏名		性別		学年 学級	年 組
住所					
保護者名		関係		電話	
緊急時連絡先	電話 ()				
避難場所					
引き取り者		本人との関係		集団下校地域班	班
引き渡し日時	月 日 時 分			教職員名	